

# 龍谷大学と旅順博物館の非漢字資料

## —その意義と保存状況—

三谷真澄

(龍谷大学国際文化学部准教授)

目次

はじめに

- 1 大谷探検隊の収集資料
- 2 龍谷大学と旅順博物館
- 3 漢字資料の共同研究
- 4 非漢字資料の共同研究

おわりに

【キーワード】：旅順博物館 大谷探検隊 文献資料 トルファン IDP

## はじめに

故百濟康義氏は、資料が海外流出する「三種の経緯」として、

1. 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて、スウェーデン・イギリス・フランス・ドイツ・日本・フィンランド・ロシアなどの国から派遣された規模さまざまの調査探検隊が、かの地で遺跡を発掘し資料を収集して自国に持ち帰ったもの。
2. 探検隊派遣国に持ち帰られた資料が、その後の不十分な管理保管・二次にわたる世界大戦での混乱などの諸般の事情により、その一部が所属機関から離れ、あるいは個人蔵となり、あるいは他国へ再び流出移転した、更なる分散のもの。
3. 二度の世界大戦後の混乱期に、一部の中国人ならびにその関係者が、自国に残っていた同種資料を国外に搬出し売却したなどの事情によって流出したもの。(贋作も含む)(百濟康義「イスタンブール大学所蔵の東トルキスタン出土文献-特にその出所について-」『東方学』84, 1992, p.1(148))

を挙げておられる。2 の場合、イスタンブール大学図書館所蔵資料のように、「各国探検隊が、かの地で遺跡を発掘し資料を収集して自国に持ち帰る途上で、他国に保管されるに至ったもの。」という場合もあったであろう。

### 1) 大谷探検隊の収集資料

旅順博物館に所蔵される仏典断片は、大谷探検隊が収集したものである。大谷探検隊は、後に西本願寺第 22 代宗主となった大谷光瑞師によって派遣されたもので、1902 年から 1914 年まで三次にわたって行われた中央アジア探検であると考えられている。それは、日本唯一の組織的な中央アジア探検であるとともに、世界で唯一の仏教者の仏教者による仏教者のための総合的探検であったと言える。また、大谷探検隊は、時間的にも領域的にも狭広二つの意味が考えられる。

狭義の大谷探検隊・・・新疆・西域地域の探検(1902-1914)

広義の大谷探検隊・・・インド、チベット、南洋などアジア全域を含む調査(1899-1923)<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 大谷光瑞師が宗主継職後初めて出した「直論」1903 年 3 月 25 日によると、明治 32(1899)年からすでに各国歴訪は始まっている。また、光瑞師の命によりチベット入りした多田等観が帰国した 1923 年ま

一般に大谷探検隊は、中央アジア、シルクロード探検として知られているが、そればかりでなく、広く仏教が伝播した地域がその調査対象となっている。ただ、全体として大きな成果を挙げているのは新疆・西域探検であったのは確かである。

大谷探検隊が収集した資料は、日本の他、中国、韓国に分散して保管されているが、その状況について、早く藤枝晃氏が、以下のようにまとめられている<sup>2</sup>。

国外にあるもの

・ A群・・・中国に保管されているもの

A-1 群・・・旅順博物館所蔵コレクション

A-2 群・・・中国国家図書館所蔵コレクション

・ B群・・・韓国に保管されているもの

B 群・・・ソウル国立中央博物館所蔵コレクション

国内にあるもの

・ C群・・・日本の国立博物館に保管されているもの

C-1 群・・・東京国立博物館所蔵コレクション

C-2 群・・・京都国立博物館所蔵コレクション

・ D群・・・龍谷大学に保管されているもの

D-1 群・・・大谷家寄贈分（木箱二個内のコレクション）

D-2 群・・・探検隊将来敦煌写経若干巻

（西域文化資料 501-537）

D-3 群・・・橘瑞超氏寄贈敦煌写経六巻

D-4 群・・・吉川小一郎氏寄贈分（写真原板、流沙殘闕）

D-5 群・・・堀賢雄、渡辺哲信の日記（『新西域記』未収分）<sup>3</sup>

・ E群・・・個人・機関の手にあるもの<sup>4</sup>

---

でとらえることができる。

「去る明治三十二年冬より、宇内宗教の現状を視察せんと歐洲の各国を歴訪し、遂に法顯玄奘の旧跡を慕ひ、許多の艱苦を凌ぎつゝ陸路印度に赴き仏祖の靈蹟を探り聊得る所あり、昔時の隆盛を追想し今日の荒廢を目撃し、感慨の至りに堪えざりき、・・・」（『鏡如上人年譜』p.27）

<sup>2</sup> 藤枝晃「大谷コレクションの現状」『仏教東漸—祇園精舎から飛鳥まで』（龍谷大学 350 周年記念学術企画出版編集委員会）1991, pp.223-230。

<sup>3</sup> これ以後、野村栄三郎師将来仏頭(1996 年)、青木文教師将来チベット文化資料(2000,2002 年)、堀賢雄師将来資料(2002 年)、藤谷晃道師将来資料(2004 年)などが、寄贈および購入されて収蔵された。

<sup>4</sup> その他、臺信祐爾氏によれば、出光美術館、MOA 美術館、シルクロード研究所、天理大学付属図書館、東京大学東洋文化研究所、根津美術館に所蔵されているとされる。臺信祐爾「龍谷大学コレクションを除く日本国内に現存する大谷探検隊将来遺品について」『西本願寺仏教伝播の道踏査 100 年展 絲綢路の至宝』（佐川美術館,2002）p.21。

## 2) 龍谷大学と旅順博物館

A-1 群が、私たちが目的とした資料である。1917 年に創立した旅順博物館は、60,000 点を越える文物を所蔵しているが、そのうち「新疆出土文物」及び「外国文物」の中のインド収集資料が、大谷探検隊の収集品に他ならない。

1992 年 3 月に、龍谷大学の上山大峻、小田義久、木田知生の三教授が、旅順博物館関係者と大連市内で面会した。しかし、旅順博物館訪問は許可されず、研究の行く末は不透明であった。

それから毎年、訪問を続けられ、ようやく閲覧する機会も多くなってきた。それでも多数の写本断片が貼付された「藍冊」と呼ばれるファイルを数冊閲覧するのがやっとであった。1999 年当時としては、珍しかったデジタルカメラで撮影したデータをもとに、コンピュータで、仏典名やテキストの検索同定作業のデモンストレーションも行い、少しずつではあるが、我々の意図や研究方法等も理解してもらうようになっていった。しかし、当時の劉廣堂館長も龍谷大学側の熱意は理解されたものの、全点にわたる写真撮影や同定研究ができようとは、想像すらできなかった。

## 3) 漢字資料の共同研究

そのような中、幸いなことに文部科学省科学研究費補助金の交付を受けることができ、文物を管理している国家文物局の研究許可がおり、奇しくも 2002 年、大谷探検隊派遣 100 周年に当たる年度から、本格的な調査研究が開始されたのである。

新疆出土文物は、陶器・泥塑・陶塑・木器・貨幣・宗教絵画・紡績品・文書・その他に分類され、計 1,714 件に及ぶ。大谷探検隊が収集対象とした仏典を中心とする文書資料は、漢字資料と非漢字資料に大別され、前者は 97 件約 26,000 点、後者は 33 件 433 点が蔵されている。漢字資料については、2002 年度より 2005 年度にかけ、同館所蔵の漢文仏典写本及び版本の共同研究を行った。2005 年には、大連市において「旅順博物館所蔵新疆出土仏經国際学術研討会」が開催され、その成果を論集として刊行した。また、2006 年には『旅順博物館蔵トルファン出土漢文仏典断片選影』（法蔵館）が刊行され、これまでほとんど知られていなかった資料 1429 点を公開することができた。

書写年代を基準として漢字資料断片を整理したもので、『トルファン出土仏典の研究—高昌殘影積録』（法蔵館,2005 年）と同様の問題意識から出版されたものである。この中

で注目すべきは、仏典写本としては最古の紀年を有する「元康六年(296)」書写の『諸仏要集經』(『西域考古図譜』掲載写本)と同一写本の離片が14点発見されたことである。

また、他に類例のない「承陽三年(427)」書写の紀年を有する「菩薩懺悔文」が発見されたことも重要である。

さらに、大谷光瑞師が最も希求した仏典であったであろう、浄土教者写本の中から最古級の〈無量寿經〉、つまり、大正新脩大藏經(大正藏)に平行テキストのない初期〈無量寿經〉が確認されたことも特筆すべきものである。探検隊が収集した写本群は、日本で橘瑞超らによって整理調査され、同定できた写本については、法華經(10冊)、涅槃經・般若經類(合計で3冊)、浄土經論は「浄土一」(1冊)として藍色のファイル(藍冊)に貼付されている。しかし、「浄土一」と表記された藍冊に貼付された浄土經論は81点のみであり、今回の研究によって加えられた85点を加えても全点に占める割合は1パーセントにも満たない<sup>5</sup>。このように点数としては寡少であったが、それこそが地理学・考古学上の発見を旨とする探検隊員でなく、浄土真宗の僧侶・仏教者として彼らが求めたものであった。1912年に刊行された『二楽叢書』<sup>6</sup>の第1号が、浄土經論の釈文からなっていることはその証左であろう。

計166点の浄土教関連經論写本断片の図版と録文を中心とする研究成果は、2010年、旅順博物館・龍谷大学西域研究会共編『旅順博物館所蔵漢文浄土教写本集成』(西域研究叢書5)として刊行された。

#### 4) 非漢字資料の共同研究

##### (1) 保管状況

<sup>5</sup> 「藍冊」を含む総断片データ数27,620点のうち既同定分15,405点をもとに、主要な經論の割合を算出したものが以下のリストである。法華經や涅槃經が多く、浄土經論が非常に少ないことが窺える。なお点数については、今後の研究により変動する可能性もあるため、概数にとどめる。

- ・法華經・・・・・・約4,020点(約26%)
- ・涅槃經・・・・・・約2,820点(約18%)
- ・般若經類・・・・・・約1,920点(約12%)
- ・大般若經・・・・・・約780点(約5%)
- ・金光明經・・・・・・約650点(約4%)
- ・大智度論・・・・・・約490点(約3%)
- ・浄土經論・・・・・・166点(約1%)

<sup>6</sup> 第二次、第三次探検に参加し、写本整理にもかかわった橘瑞超は、「摩尼ノ妙珠豈ニ徑寸ヲ以テ優劣ヲ論ゼンヤ半偈既ニ捨身ノ要アリ妙典字々尽ク法舍利ニ非ラザルナシ」(『二楽叢書』第一号序文、1912)と記している。どんなに小さな断片であっても、単なる反故や紙屑ではなく、それは「宝」であり、釈尊の遺骨にも匹敵する「法舍利」と受けとったのである。極小断片を収集し持ち帰った理由は、考古学的発見への野心や学術的関心からではなかったであろう。

非漢字資料については、「20.1550」から「20.1582」と整理番号が付けられた 33 件に含まれる 433 点は、表裏に文字面をもつ文書断片を二枚のガラス板で挟み込み、黒色粘着テープで周囲に貼って固定した資料の点数であり、一つの整理番号に最大 56 枚ものガラスが含まれている。さらに、ガラス 1 枚あたり 19 片の極小断片が挟入されたものもあり、断片の総点数は不明である。これとは別に、本学との共同研究によって新たに発見された未整理の非漢字資料があり、「20.1520」として一括して保管されている。

一方、龍谷大学所蔵資料は、保管方法も、ガラスに貼付された赤い楕円ラベルの形状や記入された文字の書体も同一である。旅順博物館とその収集経緯が同一であるばかりでなく、これによって少なくとも、両者はある時点では一括して整理されたものが、種々の経緯を経て分蔵されるに至ったことは疑い得ない。上海無憂園でサンスクリット文献を整理したのは、ロシアのニコライ・ミロノフ(Nikolai D. Mironov)であったが、彼が調査結果を報告したのが 1927 年であり、いつの時点でこのような保管方法を知り、整理されたのかは不明である。また、どのような経緯で分かれたのかも含め調査の課題となっている。

一方、龍谷大学所蔵の文献資料は、故百済康義氏の調査では、約 7,000 点で、非漢字資料が約 5,000 面とされている。文字は、ブラーフミー文字（梵字）、チベット文字、カローシュティー文字、ルーン文字、マニ文字、ソグド文字、シリア文字、ウイグル文字、モンゴル文字、アラビア文字、漢字、西夏文字、パспа文字の 13 種が確認されている。また、言語は、サンスクリット語（古典梵語）、プラークリット語（中期インド俗方言）、中世ペルシア語、コータン語、パルティア語、ソグド語、クチャ語（トカラ語 B）、シリア語、古典中国語（漢語）、チベット語、突厥語（テュルク語）、ウイグル語、西夏語、モンゴル語（蒙古語）、アラビア語の 15 種の言語にわたる。

このうち、ガラスに挟まれたブラーフミー文字の写本資料が 9 点あり、これが旅順博物館所蔵資料と同一の由来を持つものである。ガラスに挟入して文書を保管する方法は、ドイツトルファン研究所やトルコイスタンブール大学図書館及び龍谷大学大宮図書館に所蔵されている同類資料でも採用されている。しかも、黒色粘着テープが周囲に巻かれている点も共通である。

ドイツトルファン研究所では、大英博物館がすでに行っていた、表裏に文字面のある文書資料の保管方法にならったと説明され、同じくドイツトルファン隊収集資料の一部であることが確認されているイスタンブール大学所蔵資料は、セルトカヤ教授によると、ドイツ方式を踏襲して、後にその方法を採用したとのことである。

2010年3月29日に龍谷大学で開催された「旅順博物館所蔵仏教写本国際研討会」において、京都大学文学研究科教授吉田豊氏より、上海の博物館に、ソグド語資料が保管されているという情報が提供され、ミロノフの調査にかからなかった資料がさらに分散している可能性もある。

## (2)研究状況

2009年度に、古典籍デジタルアーカイブ研究センター長・岡田至弘教授の協力を得て、旅順博物館所蔵の非漢字資料の一部をスキャナを利用して撮影し、同定研究の目的に限って利用している。しかし、未だ公開できる状況にはなく、現在、青みのかかったガラス面の色彩を含む写真データをデジタル処理し、文書そのものの紙色を再現することを目指している。

ブラーフミー文字のものが圧倒的に多く、サンスクリット語、アグニ語、その他、ソグド語、ウイグル語、チベット語などが確認されている。解読研究については、現在、ソグド語資料については吉田豊氏に、ウイグル語資料については弘前大学教授松井太氏に依頼して、解読研究が行われ、成果公開に向けた準備が進められている。また、資料の大半を占めるブラーフミー文字資料も、現在、鋭意解読調査を進めているところである。

共同研究を進めている旅順博物館側との協議において、最終年度までの研究成果の公開は認められておらず、本発表では中間発表にもなりえないことはお詫びするほかないが、来年度には、研究成果を公開することをお約束したい。

## おわりに

龍谷大学名誉教授上山大峻氏が、2002年前期に行われた大谷探検隊派遣100周年記念事業の総括として、「これらの文物は、世界各国に分散していると一般に言われている。しかしそれは、分散しているのではなく、その文物が、それにかかわる世界中の人々を結びつけているのだ。」という言葉を想起したい。小さな断片が中国と日本の研究者とを結びつけたのだといえよう。

中国と日本とが、かつての歴史上の問題を超えて、文物を通して交流でき、さらに、その関係を核として、中央アジア出土写本を研究する世界各国の研究者と学問的交流を広げていくことになれば、これにまさる喜びはない。

また、これまで撮影された文献資料の画像データは、旅順博物館に全て納入しており、

中国側の許可が得られれば、IDP レベルでの WEB 公開可能な画質と解像度とが保証されていることも付言しておきたい。

## 参考

### トルファン出土写本

- 1)大谷コレクション・・・日本、大谷探検隊 龍谷大学 『西域文化研究』、『大谷文書集成壺、貳、参』
- 2)ベルリンコレクション・・・ドイツ、トルファン探検隊（グリュンウェーデル、ル・コック） Berliner Turfantexte
  - 2a)西独コレクション・・・ドイツ、マインツ、マールブルグ→ベルリン
  - 2b)出口コレクション・・・日本、ラフマティ氏旧蔵→出口常順師所蔵 130 点『高昌残影』（2005 年）
  - 2c)イスタンブル大学コレクション・・・トルコ、ラフマティ氏所蔵
- 3)マネルヘイムコレクション・・・フィンランド、マネルヘイム氏 2000 点
- 4)スタインコレクション・・・イギリス、スタイン第三次探検
- 5)サンクトペテルブルグコレクション・・・ロシア、科学アカデミー東洋学研究所
- 6)中国の二つのコレクション・・・中国、黄文弼発掘品、新疆博物館発掘品（アスターナ）
- 7)王樹枏旧蔵品・・・日本、中村不折氏蔵、上野淳一氏蔵など
- 8)旅順博物館の大谷コレクション・・・中国、52 冊の藍冊ほか計 2 万 6000 点の漢文断片と 433 件の非漢字断片
- 9)西巖寺橘文書・・・日本、181 点

### 龍谷大学所蔵中央アジア出土品

#### ・文字資料

漢字によるもの・・・宗教典籍

世俗文書

漢字以外の文字によるもの・・・非漢字資料（胡語資料）

#### ・美術考古資料

### 龍谷大学所蔵中央アジア出土文字資料の概要

1 3種の文字・15種の言語（約7,000点、非漢字資料約5,000面）

参考：ドイツ隊収集資料・・・24種の文字・17種の言語  
文字・・・ブラーフミー文字（梵字）、チベット文字、カローシュティー文字、ルー  
ン文字、マニ文字、ソグド文字、シリア文字、ウイグル文字、モンゴル  
文字、アラビア文字、漢字、西夏文字、パспа文字  
言語・・・サンスクリット語（古典梵語）、プラークリット語（中期インド俗方言）、  
中世ペルシア語、コータン語、パルティア語、ソグド語、クチャ語（ト  
カラ語B）、シリア語、古典中国語（漢語）、チベット語、突厥語（テュ  
ルク語）、ウイグル語、西夏語、モンゴル語（蒙古語）、アラビア語

#### 西域文化資料中の文字資料概観（龍谷大学所蔵）

- I. 501-543・・・「卷子本」
- II. 1001-5840（途中空番）6101-6434（以下空番）
- III. 6001-6070（以下空番）・・・「胡語文献」
- IV. 7001-7552（以下空番）・・・「胡漢両語文献」
- V. 8001-8147（以下空番）・・・『西域考古図譜』所収
- VI. 9001-9166（以下空番）・・・『流沙残闕』
- VII. 1001-10668（以下空番）・・・別置「極小断片」
- VIII. 11001-11163（以下空番）・・・「橘資料」

#### 非漢字資料

- I 群 541-543
- II 群 1097-1198, 1313-1375, 1414-1415, 1539-1545, 1547-1550, 1558-1697,  
1701-2354, 2407-2596, 2605-2826, 2918-2923, 4166-4170, 4536-4667, 4678-4679, 4683-  
4734, 4862, 5020, 5180-5364, 5366, 5437, 5469, 5471-5767, 5785
- III 群 6001-6070, 6101-6434
- IV 群 7001-7552
- V 群 8122-8131
- VI 群 9001-9010, 9012-9052, 9054-9065, 9068-9105, 9107-9125, 9128-9129,  
9131-9146, 9158-9161, 9164, 9166

VII群 10001-10137,10139-10153,10155-10200,10358,10566,10603

VIII群 11051-11110,11121-11134,11151,11162-11163

百濟康義「大谷探検隊収集西域文化資料とその関連資料（1 資料の所在）」『仏教文化研究所紀要』35, 1996, pp.42-43

## 参考文献

### 目録類

- ・ 関東庁博物館（編）『館報』第一号,1920 年
- ・ 関東庁博物館（編）『博物館陳列品図録』,関東庁博物館,1925 年
- ・ 関東庁博物館（編）『博物館陳列品図録』,関東庁博物館,1929 年
- ・ 関東庁博物館（編）『関東庁博物館考古図録』,関東庁博物館,1933 年
- ・ 旅順博物館（編）『旅順博物館考古図録』,旅順博物館,1935 年
- ・ 〔森 修〕『旅順博物館陳列品図録』,旅順博物館,1937 年
- ・ 森 修『旅順博物館陳列品解説』,旅順博物館,1937 年
- ・ 関東局（編）『旅順博物館図録』,座右宝刊行会,1943 年
- ・ 杉村勇造ほか『旅順博物館図録』,座右宝刊行会,1953 年
- ・ 井ノ口泰淳・臼田淳三・中田篤郎共編『関東庁博物館所蔵・大谷探検隊将来文書目録』二卷,西域出土仏典研究班刊,1989 年
- ・ 小田義久・中田篤郎編『大谷光瑞氏寄託経巻目録・旅順博物館』二卷,1989 年
- ・ 京都文化博物館（編）『旅順博物館所蔵品展一幻の西域コレクション』,京都文化博物館,1992 年
- ・ 佐川美術館（編）『絲綢路の至宝 旅順博物館仏教芸術名品展』,佐川美術館,2002 年
- ・ 旅順博物館（編）『旅順博物館』,文物出版社,2004 年
- ・ 青森県立美術館『旅順博物館展 西域仏教文化の精華』（旅順博物館展実行委員会,旅順博物館・龍谷大学西域研究会監修）2007 年

### 研究論文ほか

- ・ 上山大峻・三谷真澄「旅順博物館大谷探検隊将来資料について」『龍谷大学国際社会文化研究所紀要』3,2000 年
- ・ 王 宇「中国の大谷コレクション-旅順博物館におけるその整理と研究状況」『シルク

- ロードと大谷探検隊』(『季刊・文化遺産』第11号春・夏号)財団法人島根県並河萬里写真財団,2001年
- ・王宇「對旅順博物館藏大谷探險隊收集品及其整理研究的」『中国北方仏教文化研究における新視座』,永田文昌堂,2004年
  - ・王宇・房学恵著著,柴田幹夫訳「旅順博物館所藏ガンダーラ仏像について」『東洋史苑』60・61合併号,2003
  - ・王珍仁・孫慧珍著,木田知生訳「旅順博物館所藏新疆出土漢文文書の概要」『東洋史苑』45,1995年
  - ・王振芬/王若著・中田裕子訳「旅順博物館藏「建中五年孔目司帖」における新解釈」『龍谷史壇』131, pp.13-27,2010年予定
  - ・王振芬/孫恵珍著・田村俊郎訳「大谷探検隊将来品において新発見された景教の特徴をもつ地蔵麻布画についての考察—高昌ウイグル国時期の景教と仏教の関係—」『龍谷大学仏教文化研究所紀要』48, pp.178-191, 2009年
  - ・小田義久「旅順博物館所藏の西域出土文物について」『龍谷大学論集』449,1997年
  - ・小田義久「旅順博物館所藏の新疆出土文物について」『龍谷大学仏教文化研究所所報』24号,2000年
  - ・金培鋸著,秋山進午訳「旅順博物館藏新疆出土の幾つかの仏教絵画」『仏教芸術』184,1989年
  - ・片山章雄「旅順博物館所藏の大谷探検隊将来吐魯番出土物価文書」『西北出土文献研究』4,2007年
  - ・片山章雄「大谷文書・旅順博物館文書中の吐魯番出土靈芝雲型文書の一例」『西北出土文献研究』7,2009年
  - ・橘堂晃一「二樂莊における大谷探検隊将来仏典断片の整理と研究—旅順博物館所藏の所謂「ブルー・ノート」の場合」『東洋史苑』60・61合併号,2003年
  - ・橘堂晃一「旅順博物館藏「大谷探検隊将来資料」とその周辺」『東洋史苑』66号,2006年
  - ・清野謙次『大谷氏及び橘氏将来の中央亜細亜発掘のミイラに就いて』,岡書院,1930年
  - ・尚林・方廣鋸・榮新江「大谷収集品・敦煌寫經諸家著録存佚調査表」『中國所藏「大谷収集品」概況-特別以敦煌寫經爲中心-』〔附表〕(龍谷大学仏教文化研究所),1991年

- ・白須淨真「大谷探検隊将来資料と旅順博物館と大連図書館—2000 年 9 月の調査報告—」『東洋史苑』57,2001 年
- ・白須淨真「大連図書館日本文献館所蔵「旅順博物館二十年史」の紹介」『立志館大學研究紀要』3,2002 年
- ・関尾史郎「トルファン出土「菩薩懺悔文承陽三年題記」について」『西北出土文献研究』第4号,2007年
- ・三谷真澄「旅順博物館所蔵『賢愚經』漢文写本について」『印度学仏教学研究』52-2, 2003 年
- ・三谷真澄・磯邊友美「旅順博物館蔵大谷探検隊収集漢文資料について—トルファン出土陀羅尼仏典を中心として—」『龍谷大学仏教文化研究所紀要』45,2007年
- ・三谷真澄「旅順博物館所蔵の浄土教写本について」（『国際文化研究』（龍谷大学国際文化学会）第12号, pp.29-44, 2008年
- ・三谷真澄「旅順博物館所蔵の漢文無量寿經写本」『宗教研究』83-4, pp.409-410, 2010年
- ・森 修「旅順博物館の思い出」『古代文化』38-11,1986 年
- ・李際寧「旅順博物館旧蔵大谷光瑞本敦煌遺書について」『草創期の敦煌学』（羅・王両先生東渡 90 周年記念日中共同ワークショップの記録）知泉書館,2002 年
- ・「旅順博物館所蔵中央アジア出土文物,解明がすすむ大谷探検隊将来資料」『龍谷』34,1996 年

## 研究論集

- ・龍谷大学仏教文化研究所・西域研究会篇『旅順博物館蔵新疆出土文物研究文集』（龍谷大学西域研究叢書 2）,1993 年（非売品）
- ・旅順博物館・龍谷大学共編『旅順博物館蔵トルファン出土漢文仏典研究論文集』西域研究会（龍谷大学西域研究叢書 4）,2006 年（非売品）
- ・書法叢刊編集部編『書法叢刊』「旅順博物館蔵品專輯」2006年第6期（総第94期）,文物出版社,2006年
- ・郭富純・王振芬『旅順博物館蔵西域文書研究』万卷出版公司,2007 年
- ・IRISAWA Takashi: *"The Way of Buddha"2003:The 100th Anniversary of the Otani Mission and the 50th of the Research Society for Central Asian Cultures* (Cultures of the Silk Road and Modern Science vol.1) Toho Shuppan（東方出版）, 269 頁(MITANI

Mazumi: “On the Fragments of Buddhist Canon in Chinese Character of the Collection of the Lushun Museum”pp.115-122

- ・旅順博物館・龍谷大学西域研究会共編『旅順博物館所蔵漢文浄土教写本集成』（西域研究叢書 5）2010 年

#### 図録

- ・蔣 忠新編『旅順博物館所蔵梵文法華経断簡 写真版及びロ-マ字版』（旅順博物館・創価学会発行）,1997 年
- ・旅順博物館・龍谷大学共編『旅順博物館所蔵トルファン出土漢文仏典断片選影』法蔵館,2006 年